

いわた 羅針盤

ら しん ばん

2026年
9月号

9/1発行 No.107
令和8年6月定例会

「花の窓辺」

静岡県立磐田農業高等学校
2年 清澤果歩さん



【特集】若者に映る磐田市

■ 特集「若者に映る磐田市」	2
■ 6月定例会議案審議	4
■ 一般質問（15人）	7

■ トピックス	15
■ 審議結果 ほか	16

03 市に改善して欲しいことは？

- 公共交通の不便さ
バスと電車の乗り継ぎが良くなれば、ストレスなくスムーズに利用できる
- 駅前にコミュニティスペース
(学生同士の交流がないので、イベントやサークル活動にも活用したい)
- 学習交流施設
学生が集まって、勉強や話ができるスペースがほしい
- みんなで遊べる場所の充実
- 情報不足
雇用（アルバイト）の場や、学校周辺の月極駐車場



3年生 林紗帆さん



2年生 佐藤寛音さん



2年生 土橋風輝さん



2年生 大橋莉香さん

04 住みたくなるまちにするには？

- 戻ってきたいと思える企業や働く場があるといい
- 夜遅い時間に利用できる（24時間営業の）お店があれば嬉しい
- 駅周辺には居酒屋があるが、夜遅くても若者が入りやすいチェーン店がほしい

05 議員に伝えておきたいことは？

- SNS動画で市議会の活動を知ることができるようになったが、何をしているか分からないと投票もしづらい
- 歴史的なものを前面にアピールすれば地元愛が生まれると思う
- 空家などを他の大学と共同でスタートアップできればいいと思う

若い世代の声を、これからの磐田市政に活かしていきます。

終わりに

今回の意見交換を通じて、委員にとっても新たな視点や気づきを得ることができました。学生の皆さんの率直な意見は、今後の議会活動やまちづくりを考える上で大変参考になるものでした。幅広い世代の皆さんに市議会に関心を持っていただければ、今後とも情報発信に努めてまいります。

議員との
意見交換を
希望する方は
こちら



【特集】若者に映る磐田市

～静岡県立農林環境専門職大学学生との意見交換会～

今回は、静岡県立農林環境専門職大学・同短期大学部に通う6人の学生の皆さんと意見交換を行いました。磐田市は若者の目にどのように映っているのか。また、どうすれば「磐田で学びたい」「磐田で働きたい」と思ってもらえるのか。

学生の皆さんの率直な声に耳を傾けながら、本市の未来につながるヒントを探りました。

取材日 令和8年7月8日

聴き手 市議会広報広聴委員会 芦川和美委員長、永井新次副委員長、根津康広委員、江塚学委員、本間昭男委員、伊藤克之委員、高塚静子委員

01 市の魅力あるところは？

- 製造業を中心に企業がいろいろあり活気がある
- スポーツに力を入れている
ファンとの結びつきを後押しすればもっといい
- 商業施設など買い物をするとところがある
- 旧見付学校や天竜川など景色が良く、文化もあり素晴らしい



3年生 杉山紫帆さん

02 今後の市に期待したいところは？

- 若者が遊べる場所を増やしてほしい
- 公共交通が不便、気軽に自由が利く移動手段を整備してほしい
- バスの本数を増やし、待ち時間を短縮してほしい
- 大学生のニーズにも対応した支援が必要
- 150号バイパス沿いに施設がほしい
- 自転車道の整備や道路の凹凸改善が必要



3年生 内藤晃太郎さん

議案審議

令和8年
6月定例会

会期 6月8日～7月6日(29日間)

一般会計補正予算(第2号)などを審議

6月定例会では、市長提出の8年度一般会計補正予算などの一般議案 34 件を審議しました。
なお、すべての議案の審議結果は最終ページに掲載しています。

議案
第60号

8年度一般会計補正予算(第2号)

全会一致で
可決

この補正予算は、歳入歳出予算の減額、地方債の追加及び変更であり、歳入歳出予算それぞれから1億8412万1千円を減額し、総額を770億3623万9千円とするものです。

補正予算の主な内容

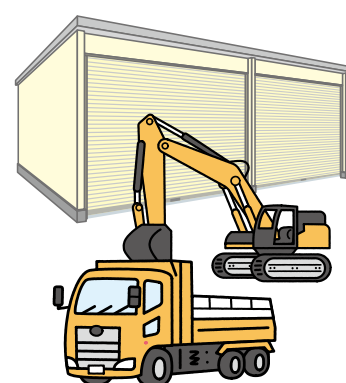
- 防災拠点の設置及び災害時相互支援体制構築事業支援金を活用した防災資機材等の整備
- 竜洋なぎの木会館内壁等改修工事に要する経費の増額
- 担い手農業者支援に対する補助金の増額
- 移住・定住促進事業の移住希望者向けチラシなどの作成に要する経費の増額
- 窓口受付時間の変更に合わせて行う各種証明等発行手数料の減額

本会議での主な質疑

問 防災拠点の設置場所と災害時の相互支援体制の構築は。

答 防災倉庫1棟をかぶと塚公園総合体育館南側に設置し、消防を含めた市職員を対象とする重機操作者の育成研修や、市民を対象とした避難所の環境改善等を学ぶ防災講座を実施することで、支援体制の構築を図る。

問 竜洋なぎの木会館内壁等改修事業の増額に至った経緯は。



答 7年度に実施した外壁等改修工事の施工過程で、一部壁面に想定した工法ではタイルを適切に固定できないことが判明し、工法の見直しが必要となった。追加改修工事に必要な設計業務が8年3月に完了したことから、利用者の安全を最優先に、早期に必要な改修工事を実施する。

問 移住・定住促進事業に期待する効果とターゲット層は。

答 スポーツ新聞の号外形式という特徴あるチラシを作成し、移住コーディネートターとして配置した地域おこし協力隊の協力も得ながらスポーツ観戦の場や移住フェア等で配付するとともに、地方に興味がある方が登録するコミュニティサイト等を効果的に活用することで、本市への認知度・関心度が高まっていくことに期待している。ターゲット層は20代から40代を想定しているが、年齢を制限せず考えている。

問 窓口開庁時間短縮による手数料減額の算出根拠と勤務時間への影響は。

答 100円の減額措置を実施した6年度交付数の実績に基づき算出し、窓口開庁時間短縮によっての勤務時間は、現状と変わらない。

議案
第62号

手数料条例の一部改正

全会一致で
可決

市役所の窓口受付時間の変更にあわせ、窓口の混雑緩和と市民サービスの向上を目的として、条例の一部を改正するものです。

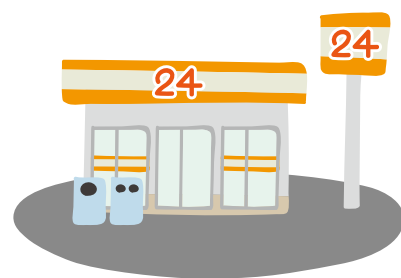
改正の主な内容

● 個人番号カード及び個人番号カードとして機能する特定在留カード等を利用し、コンビニエンスストア等に設置しているマルチコピー機から発行される各種証明書の発行手数料について、8年11月2日から一律100円を減額するもの。

答 時間帯別の来庁者数の調査では、短縮される時間の来庁者は全体の約1割で影響は限定的と認識している。しかし、市民の皆さんには御不便をおかけすることになるので、毎週木曜日及び毎月第2日曜日の時間外受付窓口を引き続き実施していくことに加え、コンビニ交付手数料の減額やオンライン申請の推進など、来庁を必要としないサービスを促進するとともに、事前周知を徹底し、受付時間変更の影響を最小限に抑えられるように努める。

問 マルチコピー機による発行の利用を促進する具体策は。

答 マルチコピー機の使用手順を掲載したチラシを作成する予定である。作成したチラシは、窓口での配布や自治会回覧、市ホームページ、広報いわたへ掲載することで周知を図り、利用促進につなげていきたい。



問 市役所の窓口受付時間を短縮することによる市民サービスへの影響は。

本会議での主な質疑

議案
第69号

8年度向陽学府小中一体校付属施設建設工事(建築)請負契約の締結

全会一致で
可決

8年5月21日に制限付き一般競争入札を行った結果、石川建設株式会社と税込み6億1820万円で工事請負契約を締結するものです。

概要

● 向笠竹之内地内の向陽学府小中一体校で、スタジオ棟の改修工事及びみんなの家の新築工事を行うもの。

● 工期は、9年3月15日までを予定している。

本会議での主な質疑

問 工事完了までの工程は。

答 スタジオ棟の改修工事は、躯体だけを残して内装や設備を撤去し、新築同等まで回復させる内外装工事を行う。みんなの家の新築工事は基礎工事から始め、躯体工事、屋根外壁工事、内装工事の順番に行う。また、別途の電気設備や機械設備工事も含めて学校と調整しながら、改修工事と新築工事を同時進行で進めていく。

問 価格上昇による工事の品質、工期、児童生徒の安全確保に係る管理は。

答 工事定例会議を毎週行うことで、品質管理、工程管理と安全管理に努めていく。



市消防団中泉方面隊第4分団に配備する消防ポンプ自動車CD—1型1台を更新するものです。

概要

●消防ポンプ自動車CD—1型1台について、制限付き一般競争入札において株式会社日本防火研究所が落札したため、同社との契約に当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例に基づき、議会の議決を求めるもの。



※写真は令和6年度に更新した車両です。

全会一致で
可決

本会議での主な質疑

問 資材の不足による納期の遅れや、物価高騰による契約額の増額変更に関するリスクをどのように考えているか。

答 現時点では半導体やナフサ不足など納期の遅れにつながるような情報はなく、議会の承認を得た上で、納車が可能と考えている。契約額の増額変更に関するリスクについては、物価高による影響などを考慮した契約額となっており、これまでの契約についても契約後の契約額の増額変更などはなく、本契約の内容に変更もないことから、増額変更になることはないと考えている。



全会一致で
可決

この補正予算は、歳入歳出予算の追加であり、補正予算（第2号）の補正後の額に歳入歳出予算それぞれ4062万3千円を追加し、総額を770億7686万2千円とするものです。

補正予算の主な内容

●市内の全公立小中学校への水筒対応型冷水機56台の購入及び設置経費、飲料水提供に係る光熱水費の増額
●財源は国庫支出金を充て、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用
●児童生徒の熱中症を予防するとともに、物価高騰下における家庭の飲料水購入費や光熱水費の負担軽減を図るもの。

本会議での主な質疑

問 本事業を実施するに至った経緯は。

答 酷暑の熱中症対策として何が効果的かを継続的に検討してきた中、小まめな水分補給による熱中症の予防が一番効果的ではないかと考え、冷水機設置に至ったものである。

問 機種選定の考え方は。

答 こどもたちは水筒を持って登校しているため、下校時、水筒に

簡単に補給できるタイプの冷水機を選定している。

問 夏休み期間中の設置を目指すのか。

答 夏休み期間中の設置を考えている。できるだけ早期に設置するため、入札を学府単位等で分け、多くの事業者に参加していただき、並行して作業してもらうことで全体の工期の日程を縮めたいと考えている。



災害時のこどもの居場所づくり

問 地域防災計画等に、こどもの居場所の設置・運営について明記する考えは。

答 避難所運営マニュアルや磐田市こども・若者スマイルプランなど、それぞれの趣旨に添った内容充実を検討する。

問 市内の「こどもの居場所」で「こどもの権利」が確実に守られるための今後の取組は。

答 団体への周知や啓発の実施に向け、こどもの居場所を運営する団体とさらなる関係性の構築を図り、情報交換会等を活用しながら、こどもの権利の周知や啓発を進める。

避難所のトイレ・衛生環境の整備

問 アタッチメントトイレや補助手すりの指定避難所への配備についての見解は。

答 誰もが使いやすいアタッチメントトイレや補助手すりの配備を検討したい。

問 生理用ナプキンの分散備蓄の進捗と今後の見通しは。

答 現在1万320枚を備蓄している。8年度から順次、



紙おむつも、全ての指定避難所へ分散備蓄していきたい。

校内教育支援センターの充実

問 校内教育支援センターの役割に対する市の認識は。

答 居場所としての機能を最優先に運営している。一人一人の思いに合わせた活動をじっくりと行い、自己存在感や自尊心・自己肯定感等が少しずつ醸成されてきている。

問 どの学校でも校内教育支援センター内で給食を食べられる体制整備の見通しは。

答 全てのこどもや保護者のニーズに対応できていない現状もある。各校の実態把握に努め、個々に合った対応ができるよう、運営体制や相談員勤務の在り方を検討していく。

市政を問う 一般質問

個々の議員が、市政全般にわたり、市長をはじめとする執行機関に対して行う質問を一般質問といいます。6月定例会では、15人の議員が一般質問を行いました。発言した順番で主な内容をお知らせします。

一般質問は内容を要約して掲載しています。

6月定例会の様子は、インターネットで録画配信しています。



磐田市議会 配信 検索



市民と創る磐田 鈴木弥栄子 議員

災害時のこどもの居場所づくりについて／避難所のトイレ・衛生環境の整備について／校内教育支援センターの充実について





問 答



問 まなび推進課を新設した狙いと目的は。

答 年代や分野ごとの学びを横断的に捉え、人づくり、つながりづくり、地域づくりを一体的に推進し、市民のウェルビーイング向上に取り組む。

問 どのような庁内連携体制を構築し、他部署の施策と学びを融合させていく考えか。

答 職員向けのガイドラインを浸透させ、市民・事業所・職員の学びや挑戦を支える環境づくりに取り組んでいく。

問 市民が学んだ成果を生かし、継続的に地域に関わる場をどのように創出していくか。

答 市内の多様な学びの場を単発の活動で終わらせず、「ひともの・こと」といった様々な資本を成長させ活躍できる場の創出に取り組んでいく。

問 地域の担い手不足解消や活性化につながる、学びと挑戦が循環するまちのビジョンは。

答 地域に関わる人や活動、関係性、知恵や経験等を地域資本として捉え、結び循環させ、育てることでウェルビーイングの向上を目指していく。

市民の学びと挑戦の循環について



問 市民の地域参画への意欲、発意に対する市の受け止めは。

答 自治デザイン課や交流センター、市民活動センターで相談対応を行っているほか、ボランティア登録制度も紹介している。引き続き、情報発信の仕組み改善や、活動の調整役育成を図りたい。

問 市民活動の継続・発展には自立的な運営につながる支援も重要と考えるが見解は。

答 補助金に依存した活動は継続性が補助金の有無に左右されやすいという構造的課題があると認識している。法人化等の支援とともに、自主財源確保に関する相談や情報提供についても支援していく。

志政会 浦木尚行 議員

問 答



問 輸送用機器関連事業を中心とした本市製造業の現状と課題、今後の成長の可能性についての認識は。

答 輸送用機器製造業への依存度が高い産業構造は強みである一方、景気変動等の影響を受けやすいことが課題と認識している。今後の成長については、輸送用機器産業で培った高度な技術や人材を生かし、これらと親和性のある航空・宇宙などの国が推進する成長分野に展開すること、新たな成長機会につながるものと考えている。

問 AI・ロボティクス等の成長分野で求められる次世代ものづくり人材の育成は。

答 本市では、経済団体や産業支援機関と連携し市内中小企業に対し、DXやAI活用セミナーへの参加促進やよろず支援拠点等の専門家による自動化やロボット導入の伴走支援を実施している。また、「磐田ここからラボ」の取組として、市内で働く方が先端技術を学ぶ場を応援するとともに、市内外の事業者が本市をフィールドとした実証実験や連携にチャレンジできるよ



う支援していく。

問 再生可能エネルギーや新エネルギー関連分野への市内企業の参入促進を通じ、新たな地域産業の創出につながる

答 洋上風力などの新エネルギー事業を誘致することで新たな産業が創出されることに加え、市内企業のビジネスチャンスが生まれることを期待している。引き続き、新エネルギー産業の誘致と併せて、市内企業とのマッチング機会の創出を図っていく。

公明党磐田 江塚 学 議員

問 答



防災力強化

問 防災力強化総合交付金を活用する考えは。

答 本市の災害リスクを評価し、災害対応における弱い部分を洗い出すことは、防災政策を推進する上で有益であるため、積極的に交付金を活用したい。

公共工事の透明性

問 労務費ダンピングを防止する確認措置導入の考えは。

答 県や他市町の状態を確認しながら、実施に向けて検討していく。現段階では9年5月以降に公告する工事から適用したいと考えている。

子どもの居場所・食支援・見守り体制の強化

問 夏季休業期間中の酷暑対策等の必要性の受け止めは。

答 記録的な猛暑による熱中症のリスクや、物価高騰に伴う生活困窮の深刻化などは、子どもの健康や命に関わる重大なリスクがある。各種団体や民間事業者等と連携した全市的な対応が必要不可欠であると考えている。



中学校部活動の地域展開

問 新たな指導者の発掘・育成にどのように取り組むか。

答 8年度は静岡産業大学の学生を対象に、現役学生への声かけや、指導者募集等についての説明会を大学と連携し開催していきたい。

問 地域展開に伴う保護者の送迎負担を、どのように認識しているか。

答 移動距離を踏まえたクラブ体制や活動場所のローテーションなど、参加しやすい環境となるよう進めている。

問 保護者負担軽減につながる移動支援策の考えは。

答 国の補助制度を活用した送迎方法や先進自治体の支援事例を参考に、関係機関と連携しながら検討している。

問 市民への理解促進に向けた取組は。

答 SPO☆CUL I WATAの理念や活動状況等を様々な方法で伝えるとともに、関わる方を少しずつ増やししながら、この新しい挑戦への理解促進を進めていく。

熱中症対策と給水環境の整備

問 熱中症リスクについて、どのように認識しているか。

答 屋外活動時はリスクが高まると認識している。熱中症警戒アラート発令中などには、屋外活動自体を極力避けるよう市公式LINE等で周知をしている。小中学校では、熱中症対策グッズの使用を推奨するとともに、水筒の中身の補充や、体育の授業などで給水タイムを設けている。

問 公共施設や学校周辺等に冷水対応を含めた給水スポットの設置を検討する考えは。

答 全国的には民間事業者との連携協定などにより、給水スポットを設置した事例もある。情報収集を行い、積極的に取り組んでいきたい。



安全・安心な活動環境の整備

問 小中学校体育館空調設備利用における平時・災害時の適切な運用は。

答 空調設備運用指針に基づき、児童生徒の体調や学習環境を考慮し、弾力的に運用している。避難所での熱中症や災害関連死を防ぐため、訓練や資機材点検の機会を活用し、空調設備の使用方法を確認していく。

問 酷暑から子どもたちを守る学校の給水環境等整備は。

答 発達段階を考慮した設置が大切である。給水ポイントや冷水器等の整備基準を含め、先進事例の情報収集を行い、より効果的な熱中症対策の計画立案に取り組んでいく。

一問一答



せいわ会 平田直巳 議員

災害時の対策について／家庭ごみの収集について／磐田市の諸課題について

災害時の対策

問 井戸所有者と災害時利用に関する協定の進捗状況は。

答 20事業所が災害時協力井戸事業所として登録している。

問 井戸の活用訓練等についての進捗状況は。

答 11月に開催予定の県総合防災訓練で、地域と災害時協力井戸事業所の連携による活用訓練を計画している。

問 防火水槽の耐震化の進捗状況と更新の優先順位等は。

答 1317基のうち、678基の耐震化が完了している。消防水利の空白域や劣化した防火水槽の更新を優先し、耐震化するよう計画している。

家庭ごみの収集

問 自治会でのごみ収集について、悪質な排出に対する原因究明と再発防止策は。

答 不適正なごみの排出が確認され、ごみ袋に記名があれば、不適正な理由を添付し、集積所ごとに正しく出し直してもらっている。無記名の場合は、全てを市職員が収集し、排出者が判明すれば、通知等により正しい排出方法等をお

知らせしている。

磐田市の諸課題

問 海岸保全施設の指定による市の考えと今後の関わりは。

答 竜洋海岸を含めた遠州灘沿岸の海岸保全対策は重要な課題と認識している。長年にわたり国や県に強く要望してきた結果、海岸侵食対策事業が国交付金の重点配分対象となった。更なる海岸侵食対策の促進を要望していく。

問 空き家や雑草等が繁茂する所有者不明土地対策は。

答 所有者等に通知や電話連絡などを行い、継続的な指導を実施している。必要に応じて所有者等への訪問を行うなど、地域住民の不安解消に務めていく。



一問一答



愛和 鈴木百合子 議員

小学校の児童引き渡し訓練について／駒ヶ根市との友好都市交流について

小学校の児童引き渡し訓練

問 災害別の引き渡しマニュアルを標準化し、共通のガイドラインを作る考えは。

答 引き渡し基準は市内統一だが、災害ごとの基本的な考え方を示すとともに、各校の引き渡し訓練のマニュアルが地域の実情や災害の種類に

応じ、実効性の高いものになっているかも含め、各校に対して指導助言をしていきたい。

問 引き渡し連絡のアナログとデジタルの役割分担をどう整理するか。

答 アナログでも確実に引き渡しができる体制づくりをしていきたい。発災時にコドモンが使えない場合、こどもたちは学校に留め置いて安全を担保し、連絡がなくても保護者に来てもらうよう、事前に伝えることをマニュアルに入れていきたい。

問 災害時の混雑緩和と実効性のある引き渡し方法の検討は。

答 学校周辺の交通環境や学校規模、立地環境等に依りて、徒歩、自転車利用の推奨、時差引き渡し、地区ごとや学年

別の対応などの具体的な工夫をしている事例もある。今後は、こうした取組を共有し、より安全で確実な引き渡し体制の構築のための指導助言をしていきたい。

駒ヶ根市との友好都市交流

問 市民レベルの交流を関係人口創出につなげていく考えは。

答 現在、軽トラ市での駒ヶ根市の特産品の販売や産業振興フェアへの駒ヶ根市内の企業の出展などの交流があるが、さらに今後は、市民団体などが参加できるよう、情報発信などに努め、関係人口の創出につなげるよう取り組んでいる。



一問一答



日本共産党磐田市議団 根津康広 議員

イラン情勢の影響から地域経済と暮らしを守る対策について／公共施設等の遊休資産の有効活用策について／学校給食費無償化の充実策について

イラン情勢の影響への対策

問 市内事業者への影響は。

答 原材料や石油製品、包装資材の供給不安や仕入価格の上昇等で、幅広い業種に影響が出始めている。

問 市として支援の拡充は。

答 物価高騰対策として実施しているプレミアム商品券事業により、市民生活を支援するとともに市内消費の喚起による事業者支援につながるものと考えている。

遊休資産の有効活用策

問 スモールコンセッション形成推進事業として旧岩田小学校を応募した経緯と、専門家の派遣が決定した理由は。

答 地域コミュニティとしての活用が国の制度の趣旨と合致したため応募した。遊休資産を有効活用したい本市の考えが評価されたと考えている。

問 専門家の役割と、市・国・民間事業者の役割分担は。

答 国は専門家の派遣経費を負担し、市は専門家の助言を受け、方針を決定し、構想を策定する。策定後、民間事業者を選定し、事業者が実際の

事業を担っていく。8年度の調査結果を踏まえて、9年度には事業着手の判断をしたい。

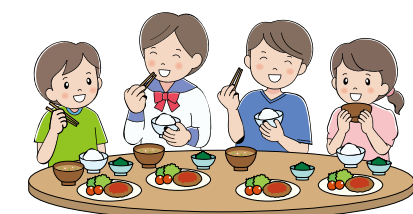
問 旧大藤小学校、旧向笠小学校の跡地の有効活用に向けた今後の進め方は。

答 行政による活用を検討しているが具体的な用途は決まっていないため、旧岩田小学校の活用検討で得られるノウハウを用いて検討を継続したい。

学校給食費無償化の充実策

問 学校給食を利用できない児童に学校給食費無償化相当額を給付すべきでは。

答 国は非喫食者の範囲の考え方や自治体の対応例を示すとしているため、情報収集を行い、実施の可否、対象者や支援内容を検討していく。



一問一答



市民と創る磐田 高塚静子 議員

環境美化の促進について／健康づくりの推進

環境美化の促進

問 24時間対応可能なAIカメラなどのデジタル技術の活用と夜間パトロールにより、ごみの不法投棄の未然防止や抑止力を強化する考えは。

答 通報の多い箇所に試験的に可動式カメラを設置したところ、警察へつなげるなどの効果があつた。今後も常習的に不法投棄される箇所には、可動式カメラの設置を検討していく。また、現在も夜間パトロールについては、警察に相談して対応をしており、現時点では警備会社等への委託は考えていない。

問 民間企業が実施している清掃活動を、市のイベントなどに連動して実施する考えは。

答 これまでも民間企業と連携した清掃活動を行っている。市の各種イベントにおいても、このような輪が広がるよう検討していきたい。

問 県で導入しているごみ拾いSNSアプリ「ピリカ」を、市民へ積極的に周知していく考えは。

答 市民の環境美化意識の啓発につながるものと考えてる

健康づくりの推進

問 ウォーキングを地域全体に推進していく考えは。

答 コースの紹介、動画配信一人でも安全に楽しめることの周知など、歩きとなる仕掛けを通じて、地域での健康づくりの推進を図り、健康寿命県内1位を目指していく。

問 安心して歩ける環境整備をどのように進めていくか。

答 行政のみならず、コース周辺の地域の方や事業者、商店などと共創しながら、安心・安全な歩行環境の整備や回遊性の向上を進めていく。



一問一答



志政会 伊藤克之 議員

本市の自然資源の認知度向上と活用について

問 桶ヶ谷沼の現状と存在価値、保全状況の認識は。

答 絶滅危惧種であるベッコウトンボをはじめ多くの動植物の生息地として県の自然環境保全地域に指定されている。本市の貴重な自然環境であるとともに、大切な環境学習の場と認識している。

問 自然観察会等参加人数の現状評価は。

答 7年度の参加は388人で、参加者は年々増えており、さらに参加してもらえよう情報発信に努める。また、若い世代にも保全活動に興味を持ってもらえる重要な機会と評価している。

問 桶ヶ谷沼ビジターセンターと市竜洋昆虫自然観察公園との連携の現状や今後の方向性は。

答 連携して昆虫教室などを桶ヶ谷沼で開催している。引き続き連携事業を実施し、相乗効果による双方の施設利用者の増加につなげていきたい。

問 ハマボウ群生地への位置づけや価値の認識は。

答 仿僧川と太田川が合流する河口環境を象徴する植物で、福田地区を代表する自然環境

資源と認識している。市内には色々なシンボリックな存在が季節ごとにあり、ハマボウもその一つで風物詩と受け止めている。

問 ハマボウ群生地の維持管理の現状と課題は。

答 現状は、河川管理者である県が維持管理を行っている。課題は、治水のほか、環境保全、景観なども踏まえて維持管理を考えていくことである。

問 ハマボウ群生地の市民団体等との協働による活用は。

答 SNS等を活用し、市内外に周知を図るとともに、地域住民などと対話をしながら、資源を掘り起こしていきたい。



一問一答



愛和 宮崎真理子 議員

ワクチン接種における市の情報提供のあり方について／磐田市の農業のこれからについて

ワクチン接種

問 RSウイルス母子免疫ワクチンの効果や副反応をどのように説明しているか。

答 母子健康手帳交付時に国が作成したリーフレットで、得られる効果と副反応に関するリスク情報の両方を説明し、医師と相談の上接種の判断をするよう案内している。

問 HPVワクチンの接種を判断する際に必要な情報を十分に得られるよう、市はどのような工夫を行っているか。

答 家庭で効果と副反応に関するリスクの両面を理解した上で判断をいただけるよう、本人向けと保護者向けの冊子を配布している。

問 十分な説明を受けた上で接種に同意するためには、医師会や医療機関との連携が重要と考えるが、市の見解は。

答 医師と相談できる環境が保持できるよう、引き続き医師会及び医療機関と連携をしていく。

市の農業のこれから

問 市はレモン栽培100ヘクタールの目標に向け、どのように面積を確保していくか。

答 技術講習会や栽培相談の実施に加え、圃場整備や未収益期間の支援を行うことで、新規参入を促進していく。

問 レモン産地化の今後の方向性とブランド戦略は。

答 ブランド化はポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社とJA遠州中央との連携協定を核に、生産者をはじめ、飲食店や青果店など多様な主体と連携し、生産から加工、販売、情報発信までを官民一体となって進めていく。8年度中に外部人材を交えて、ブランド化に向けて推進していく会を立ち上げ、ロードマップを作成していく。



一問一答



日本共産党磐田市議団 高梨俊弘 議員

医療・福祉の諸課題／雇用、働き方の諸課題／消防署における救急活動の諸課題

医療・福祉

問 OTC類似薬の保険外しによる影響と受診抑制の懸念に対する見解は。

答 対象となる薬が処方される場合は自己負担額が増えることになる。国が検討中の仕組みの詳細な情報が提供される次第、周知に努めていく。

問 先発医薬品の特別料金制度の導入によることも医療費の現状と課題は。

答 患者が先発医薬品を選択した場合に特別な料金が発生するもので、制度が十分理解・認知されていないため、周知に努めていく。

雇用、働き方

問 株式会社タイミーとの委託契約の具体的内容は。

答 草刈りや軽作業を委託する予定で、受託事業者が従事者との雇用契約の締結、雇用管理を行い、市は安全な作業環境の確保を指導していく。

問 タイミーなどスポットワーク事業者は教育・保育・介護分野への進出を進めており、自治体の安易な利用は問題があると考え。見解は。



答 専門的分野に活用する場合は、必要なスキルや資格を確認した上で、適切に対応していく必要があると考える。

問 7年度における市立総合病院の看護師の退職者の状況、業務改善の取組は。

答 退職者は31人、離職率は6・18%で全国平均の11%を下回っている。通信機能付き測定機器の導入等で、記録業務の効率化などを図っている。

消防の救急活動

問 7年の救急出動件数、救急搬送人員と、救急搬送における課題は。

答 出動件数は7698件、搬送人員は6825人で、軽傷者が多いことや医療機関の受入困難事案が課題である。

一問一答



志政会 小池和広 議員

都市計画マスタープランの見直しと2040年を見据えた市街化調整区域の機能分別について

問 三つの高速道路インターチェンジ周辺を戦略的産業拠点として強化するための考え方を次期マスタープランへどのように反映していくか。

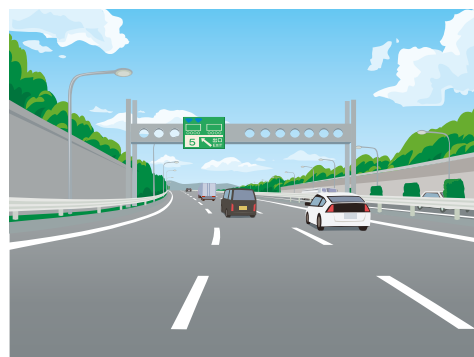
答 どのような企業を誘致したいのかを考え、今ある制度を最大限に活用し、新たな可能性や選択肢を広げる計画に作り上げていきたい。

問 子育て世帯が本市に住みたいと思えるよう、市街化調整区域内の既存集落周辺において、質の高い住環境整備へどのように取り組んでいくか。

答 地域で生まれ育ったことでもたがその地域に戻り生活できることはもちろん、市外からも選ばれる住環境の整備を目指し、都市交通ネットワークが整備され、利便性の高い東海道本線沿線地域への居住ニーズに応じた魅力ある住環境の形成に向けた手法を検討していく。また、都市構造が一目で分かるよう一枚の絵で示すことも検討していく。

問 海岸沿いエリアへ民間投資を呼び込むための土地利用や制度設計について、今後どのような方向で進めていくか。

答 防潮堤や国道150号バ



イバスの整備が進み、次世代空モビリティなどの産業集積も進んでいる。エリア全体の価値を高め、産業や観光などへの新たな投資を呼び込むための位置づけを検討していく。

問 AI等を活用した配車最適化や運行効率化が進むことは、公共交通の維持において重要である。新技術導入をどのように捉えているのか。

答 交通事業者と連携を深め、さらなる最適化等を目指す。また、公共交通計画策定から3年、生成AIの進捗等があるので、オンデマンド交通を研究し、公共交通のデザインに結び付けていきたい。

7/9

～ようこそ議場見学へ～

中部小学校6年生の皆さんが議場見学に訪れました。こどもたちは議席に座って、市議会の役割や仕組みについて学んだあと、「こどもの遊び場」についての模擬議会を体験しました。その後、グループに分かれて議員に質問を投げかけるなど、活発な意見交換の時間を過ごしてもらいました。



7/10

防災研修

災害対応の最前線に立つ市職員も被災者となり得る中、発災初期の限られた資源で市民の命を守るには、行政だけの対応には限界があります。議会と行政が互いの理解を深め、連携することで、安心できるまちの実現に近づけるよう、災害時の議員の役割などについて研修を実施しました。

7/15
16

議会運営委員会視察 ～千葉県白井市・埼玉県狭山市～

議会運営委員会は、一般質問における資料提示について調査するため、千葉県白井市と埼玉県狭山市へ行政視察を行いました。視察先では、資料投影の基準や課題等について説明を受け、質疑応答や意見交換を行いました。



【千葉県白井市議会】

新磐田 永井新次 議員

一 | 括 | 質 | 問 |



用語解説

※14 フードバンクふじのくに：まだ安全に食べられるのに廃棄されてしまう食品を企業や個人から寄贈してもらい、生活困窮者や福祉施設へ無償で提供する県の特定非営利活動法人（NPO法人）です。

人が集まるまちづくりについて／移動手段でつなぐまちづくりについて／市の諸課題について

人が集まるまちづくり

問 魅力ある農業を活用し、農業体験や農泊などの非日常的体験と食育を組み合わせた取組を、交流人口の拡大を図る施策として検討できないか。

答 意欲ある市民や事業者との共創により課題を整理し、農業や食などの資源を磨き上げ、首都圏などからも人を呼び込むほか、農作業や収穫体験を通じて、農業の魅力を体感する事業に取り組んでいく。

移動手段でつなぐまちづくり

問 駅からの移動手段の充実のため、レンタサイクル事業の再実施について改めて検討できないか。

答 駅からの移動手段を充実させることは、市内周遊の利便性向上に効果的と認識している。公民連携による事業提案を広く募集し、事業者と連携した実証実験などにより、調査研究をしていきたい。

市の諸課題

問 本市におけるごみ袋記名の考え方とプライバシー保護について見解は。

答 ごみ袋の記名は、廃棄物の減量や適正処理を目的としている。一方で、防犯上の理由やプライバシーに関する不安の声もあり、割り当てた記号を使ってごみを出す手続きを案内している。

問 本市におけるフードバンクの拠点整備は。

答 フードバンクふじのくにを拠点とした支援を継続するとともに、新たな取組として、株式会社ファミリーマートと合意書を交わし、8年度から市内13店舗でファミマフードドライブを開始した。本市の中で食品ロスの削減と生活支援が実現できる仕組みであり、フードバンクを補完する共創の取組として広く情報発信をしていく。



愛和 芦川和美 議員

一 | 問 | 一 | 答 |



関係人口戦略の推進について／未来を創る公園づくりを目指して／指定管理者制度の見直しについて

関係人口戦略の推進

問 「ふるさと住民登録制度」について、どのような活用を検討しているか。

答 先進自治体の取組を参考に検討している。全国統一システムが秋頃に受付開始との情報があり、システムの活用が始まる段階から調整・準備を進めたいと考えている。

未来を創る公園づくり

問 遊具などの更新や老朽化対策を行う際、防災機能を積極的に導入していく考えは。

答 公園の規模や地域の実情に応じた防災機能の整備方針を設け、改修計画と併せて必要な防災機能の導入を進める。



問 次期「緑の基本計画」の改定において公園の雨水浸透機能や防災・減災の観点などをどのように反映していくのか。

答 グリーンインフラの考え方を取り入れ、芝生や樹木による保水機能や雨水流出抑制機能として位置づけ、防災・減災機能の向上を図る。

問 竜洋海洋公園の基本構想策定及び民間活力導入可能性調査について、今後のスケジュールは。

答 8年7月中に委託業者選定を行う予定である。選定後は基本構想の検討に着手し、公園の方向性や整備範囲の整理を行い、構想の策定をしていく。

指定管理者制度の見直し

問 新規参入を促し民間の創意工夫を引き出す考えは。

答 公募では多くの応募が集まるよう募集方法の見直しを検討していく。

問 新たな運用に向けて「公民連携の仕組みづくり」への想いは。

答 庁内の情報共有を密にし、専門家と対話する機会を設けるなど公民連携のノウハウを獲得していきたい。

審 議 結 果

■全会一致により可決・同意された議案

- (1) 8年度一般会計補正予算（第2号）
- (2) 印鑑条例の一部改正
- (3) 手数料条例の一部改正
- (4) 税条例の一部改正
- (5) 介護保険条例の一部改正
- (6) 森林等の火入れに関する条例の一部改正
- (7) 消防団員等公務災害補償条例の一部改正
- (8) 8年度富士見小学校教室棟増築工事（建築）請負契約の締結

- (9) 8年度ながふじ学府小中一体校体育館空調設備設置工事（機械設備）請負契約の締結
- (10) 8年度向陽学府小中一体校付属施設建設工事（建築）請負契約の締結
- (11) 8年度向陽学府小中一体校駐車場外整備工事（土木）請負契約の締結
- (12)～(13) 財産の取得
- (14) 8年度一般会計補正予算（第3号）
- (15)～(33) 農業委員会の委員任命
- (34) 人権擁護委員の候補者推薦

■その他本会議で議題となった案件

- (1) 市議会議員の派遣



9 月 定 例 会 の 予 定

（9月9日～10月16日）

日	月	火	水	木	金	土
9/6	7	8	9	10	11	12
			本会議 （議案上程）			
13	14	15	16	17	18	19
			本会議 （一般質問）			
20	21	22	23	24	25	26
			本会議 （一般質問）		本会議 （議案質疑）	
27	28	29	30	10/1	2	3
本会議 （議案質疑）		予算決算委員会分科会（審査） 常任委員会（審査）				
4	5	6	7	8	9	10
				予算決算委員会 （採決）		
11	12	13	14	15	16	17
				本会議 （採決）		

※いずれも午前 10 時から

日程は変更する場合もあります。

一般質問を行う議員の順番や内容につきまして 9 月 16 日（水）にホームページ上で公開を予定しております。また、聴覚障がい者の皆さまの議会傍聴のため、手話通訳者や要約筆記者の手配等を行っています。ご希望の方は、事前に議会事務局（電話 0538-37-4822、ファックス 0538-37-4845）までお問い合わせください。

表紙の写真

磐田農業高等学校 2年 きよさわ か ほ 清澤果歩さん

磐田農業高校のバラ園で出会った一輪のバラを、窓辺からのぞくような構図で切り取りました。やわらかな薄桃色の花びらと木枠が織りなす光景は、まるで花が優しく語りかけてくるようです。背景のつぼみたちが未来への期待を感じさせ、初夏の穏やかな空気と生命の輝きを表現しました。タイトル「花の窓辺」には、花の美しさを身近に感じてほしいという思いを込めています。

【編集後記】

今回の特集では、静岡県立農林環境専門職大学の学生との意見交換を通じて、磐田市の魅力や課題について率直なご意見を伺いました。若い世代の新鮮な視点を今後の議会活動に生かすとともに、中部小学校 6 年生の議場見学など広報広聴活動を通じて、分かりやすい情報発信に努め、より開かれた議会を目指してまいります。（江塚 学）

【広報広聴委員会】

■委 員 長：芦川和美

■副委員長：永井新次

■委 員：高塚静子、伊藤克之、本間昭男、
江塚 学、根津康広

今回は**12月1日**発行予定です。